

A group of elementary school students, mostly girls, are gathered in a circle in a gymnasium. They are wearing white short-sleeved shirts, dark blue skirts or shorts, and white baseball caps. One student in the center is wearing a light blue long-sleeved shirt. They are all looking at a tablet held by one of the students. The gymnasium floor is made of light-colored wood and has various colored lines (yellow, green, blue, red) painted on it. In the background, there are wooden bleachers and other students in red shirts.

小学校第5学年 体育（運動領域）

課題の解決のために、端末を活用して動きの改善点を伝える。

小学校第5学年 体育（運動領域） 「跳び箱運動」

■単元の目標

- (1) 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

■単元の概要

跳び箱運動は、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりして、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、単元前半は切り返し系の技、単元後半は回転系の技に取り組むようにする。単元を通して、児童が自己のできる技に取り組んだり、更にできるようになりたい技に挑戦したりすることで、自己の能力に適した技に積極的に取り組むことができるようにする。

■単元の指導計画（8時間）

第1時

「オリエンテーション」

- ・単元の学習の見通しをもつ。
- ・本時のねらいを理解して、目標を立てる。
- ・準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する。
- ・跳び箱運動をする。 など

第2時～第4時

「切り返し系の自己のできる技に取り組む」

「切り返し系の更にできるようになりたい技に挑戦する」

第5時～第7時

「回転系の自己のできる技に取り組む」

「回転系の更にできるようになりたい技に挑戦する」

第8時

「学習のまとめ」

- ・単元を振り返り、学習のまとめをする。 など

■小単元の概要

技の動画を視聴することを通して、技の行い方を理解することができるようにする。

切り返し系の技の行い方について、学習資料や端末を活用したり、実際に技を行ったりして理解することができるようにする。

回転系の技の行い方について、学習資料や端末を活用したり、実際に技を行ったりして理解することができるようにする。

できるようになった技を見せ合い、学習のまとめをする。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2時～第7時）

【学習活動の場面】

学習のねらいを「技の行い方を理解し、課題の解決のための活動を工夫して技に挑戦しよう」と設定した。技は、第2時～第4時では切り返し系の技、第5時～第7時では回転系の技を取り上げた。A児は骨形成不全症（遺伝的要因により、骨形成に異常が見られ、骨折がしやすい状態で、負荷がかかる運動、接触がある運動については医師から禁止されている）のため、端末が普及されるまでは、跳び箱運動は見学が中心であった。しかし、**端末を活用することができるようになり、仲間の動きの改善点を伝えることに自ら取り組むようになった。**

【子供の「深い学び」の姿】

体育の見方・考え方で学習を捉え直す。

A児は、これまで学んできた体育の見方・考え方を踏まえ、本単元の学習では、仲間を「支えること」ができるのではないかと考えた。

端末を活用し、仲間の動きの改善点を考え、まとめる。

仲間が台上前転に挑戦する姿をA児は撮影し、技ができるようになるための改善点を一緒に考える姿が見られた。その場で改善点が見つからない際には、放課後や家庭でクラウド上に保存された動画（仲間の試技の動画及び台上前転の模範動画）を視聴した。**動画をスローで再生したり、見比べたりすることで、着手の位置が改善点であることをA児は見付けた。**着手の位置の改善点を、プレゼンテーションソフトの図形を使って分かりやすくまとめた。

技ができるようになるための改善点を仲間に伝える。

改善点をプレゼンテーションソフトのアニメーション機能を活用しながら説明し、仲間の活動を支えた。

【当該指導での「深い学び」】

A児は、これまでの体育科の学習で体育の見方・考え方を学んではいたが、「支えること」については身体的な面で難しい状況であった。しかし、端末を活用することで、運動やスポーツとの多様な関わり方が可能となった。本単元では、仲間の動きの改善点をまとめることで、運動の課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、技のポイントについての思考を広げたり深めたりすることができた。そのような学びの過程を通して、**知識の習得だけでなくとどまらず、思考力、判断力、表現力等の育成や学びに向かう力、人間性等の涵養にもつながった。また、本単元以降の学習においても、運動やスポーツに更に積極的に関わろうとする姿に変容していった。**

■指導上の工夫とICTの利活用

①体育の見方・考え方を確認する。

*「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方があることを単元を通して確認する。

②課題の解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝える活動を位置付ける。

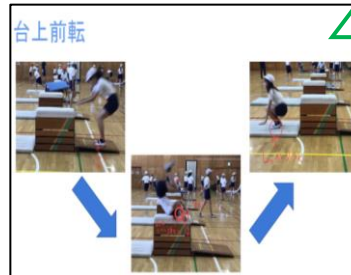
*端末を使って動きを撮影するだけでなく、課題を解決するための端末の活用例を紹介する。
*体を動かす機会を適切に確保した上で他者に伝える活動を行うことに教師は常に留意する。

③単元の終末に、再度、体育の見方・考え方を確認する。

*本単元以降の学習においても体育の見方・考え方を働かせて、深い学びが実現することができるよう、体育の見方・考え方を再度確認する。



仲間の動きを撮影するA児



仲間の動きの改善点をまとめた資料

学習指導要領や解説との関連

小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育

第2の〔第5学年及び第6学年〕の2のB 器械運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技を身に付けること。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

第3の1の(1)

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。

第3の1の(6)

- (6) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

第3の2の(3)

- (3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

第2章第2節の〔第3学年及び第4学年〕のB 器械運動 (1) 知識及び技能

ウ 跳び箱運動

○ 台上前転

- ・ 助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地すること。

第2章第2節の〔第5学年及び第6学年〕のB 器械運動 (2) 思考力、判断力、表現力等

○ ICT 機器を活用して、自己やグループの課題を見付ける例

- ・ タブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできればや次の課題を確認するなど、自己の課題を見付けること。

○ 観察し合って見付けたこつやわかったことを他者に伝える例

- ・ グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして、つまづいていた技や演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり、映像を活用して発表したりするなどして、仲間やグループに伝えること。